

1. 二つの顔を持つ僧侶「露の団姫」さんのこと

図-41の方で、上方落語協会に所属する落語家であり、かつ、天台宗不軽山道心寺（兵庫県）の僧侶でもあるという。テレビやラジオ、高座等の様々な分野で活躍している。クリスチャンと結婚したというが、次のネットサイトからQA方式で抜粋する。「<https://www.e-aidem.com/ch/listen/entry/2019/05/29/103000>」

Q1; 団姫さんの夫はクリスチャンと聞いたが？

A1; 夫の豊来家大治朗は太神楽曲芸師だが、プロテスタントのクリスチャンでもある。芸風も信仰もまったく違う、人生の相方である。名古屋の寄席で一緒になった時に知り合った。

Q2; 大治朗さんの信仰についてどう捉えているのか？

A2; 例えば、夫が週末にかけて出張に行くとして、近くに夫の宗派に合う教会はないかな？ と一緒に探すような仲。互いの宗教は「そこはそれ、これはこれ」と考えているので、宗教が原因で喧嘩をしたことはない。夫は毎週末には日曜礼拝に行く比較的熱心なクリスチャンであるけど、互いに理解しあって生活している。



Q3; とはいえ、仏教徒とクリスチャンの結婚となると、反対の

声も多かった？

A3; 様々な沢山の批判はあった、何を考えているんだ、なんてことも言われた。ただ、私や彼を知る人からの反対がなかったのはうれしかった。結局、結婚式は延暦寺と教会の両方で行った。



図-41

Q4; そもそも多くの人は、宗教それ自体を「よくわからないから不安」なんだと思うが？

A4; 私の場合は仏教徒、夫の場合はキリスト教徒であるが、いずれにしても心のよりどころを持ち「おかげさま」の気持ちを忘れずにいることが豊かに生きる秘訣。なので、信仰をお互いに持っていることは良いことだと思う。

.....

太神楽と言えば神道の香りがする、その方（夫）がクリスチャンである。そしてご自身（妻）は仏教徒、よって、結婚式は教会と延暦寺の両方で行ったということだが、この柔軟性と大抱擁性に驚愕し感激する、神・仏・キの大融合の様相である、なんと素晴らしいことだろう。

2. 神・仏・キ、三者の共同御朱印のこと

図-42 は朝日新聞デジタル（2018年7月30日03時00分）に掲載された内容である。一枚の台紙に並べた形式にしのである、普通はこのような発想は湧かない。代表的な三つの宗教界が対等互啓（恵）精神を以って同座の実践である。私達の足元にも神社、寺院は固より教会さえある地域において、このようなことを真似た取組みを行えば衆目を集めることになるだろう。子供達に対する地域教育にはとてもいい素材になると思う。



崎津教会の御朱印（左端）などを押した御朱印帳を手にする中村五木市長＝熊本県天草市



「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産への登録が決定してから30日で1カ月。熊本県内唯一の構成資産「天草の崎津集落」では29日、集落内の仏教と神道、キリスト教の三宗教の霊場に記念巡拝し、御朱印をもらうユニークな取り組みが始まった。キリスト教会が御朱印を発布するのは極めて異例だ。

企画した「天草みな宗巡礼センター（天草八十八ヶ所霊場先達会）」の世話役、山口誠治さん（55）によると、天草地域では「四国遍路」の天草版「天草八十八ヶ所霊場巡り」が数年前から盛んだ。

「お遍路さん」の一行は崎津の霊場「曹洞宗 普応軒」を巡拝する際、その足で崎津教会と崎津諏訪神社にも参拝していた。

今回の世界遺産登録については、約250年の禁教下で、周囲の神道や仏教の信者に一人の密告者もいなかったという奇跡の歴史があったおかげで「潜伏」ができたと評価。三つの宗教が互いに支え合ってきた象徴として「三宗教の御朱印」を発布し、異なる宗教をまたいで世界平和のメッセージを天草から発信したい、と参拝ガイド役の「先達会」が発案し、実現した。

図-42

(end)